

英語科学習指導案（1年3組）

1 単元 「ウッド先生がやってきた」(PROGRAM 3 Sunshine English Course 1)

2 単元設定の理由

(1) 教材観

①学習指導要領上の位置付け

[知識及び技能]

エ(イ)b 主語＋動詞＋目的語

(ウ)b 接続詞

[思考力、判断力、表現力等]

エ話すこと[やり取り]

(ア)関心のある事柄について、相手からの質問に対し、その場で適切に応答したり、関連する質問をしたりして、互いに会話を継続する活動

(イ)日常的な話題について、伝えようとする内容を整理し、自分で作成したメモなどを活用しながら相手と口頭で伝え合う活動

②単元の価値

本単元は、新しく中学生になった由紀のクラスの英語の授業に ALT のウッド先生がやってきて、自己紹介をする場面と、生徒たちがウッド先生に質問をする場面で構成されている。初対面の場合、英語でどのように自己紹介をするかということと、どのように対話を維持し、展開していくかを具体的なコミュニケーションの1つの事例として生徒に学習させることができる教材である。

本単元の言語材料は、一般動詞の平叙文及び疑問文である。自己表現やコミュニケーションの基礎となる重要な言語材料である。一般動詞を使うことで、be 動詞だけでは伝えきれなかった普段することや習慣などを伝え合うことができる。そのため、自己紹介の場面で一般動詞を使いながら対話を継続させることができる。

③単元の系統性

- ・PROGRAM 2 では、「互いの共通点を発見しよう」という活動を通して、be 動詞が主語の状態を説明するという働きに気付いたり、be 動詞を用いた表現を習得したりしてきた。相手に自分の自己紹介を理解してもらえるように、相手が理解できる早さで伝えることの重要性を学んだ。また、自分の好きなことや苦手なことをただ伝えるだけではなく、相手との共通点を見つけられるように自己紹介を進めることのよさを学んだ。
- ・PROGRAM 4 では、「地球のために普段の習慣を見つめ直そう」という活動を通して、疑問詞 what を用いた質問や、How many~や How often~などの表現を使った質問をすることで、相手の普段の習慣や聞きたい数を尋ねる表現を学習する。相手の意図や習慣などについて質問できる表現を増やすことで、相手とのやりとりで会話を継続できるようにしていく。

(2) 生徒観 ()

①既習の学習内容や活動

- ・PROGRAM2 の「アメリカからの転校生」という単元で、「互いの共通点を発見する」活動を通して、互いの出身地や得意なこと、不得意なこと、気持ちなどを交えながら自己紹介をする表現を身に付けた。

②本単元に関わる生徒の実態

- ・知識及び技能について、自己紹介をする際に名前や年齢や誕生日、好きなことを伝えるために必要な言語材料を小学校外国語活動で 34 名が学習している。本単元では、その他の一般動詞を使用するとより深く自己紹介をすることができることを理解し、自己紹介の知識や技能として身につけさせていきたい。
- ・思考力、判断力、表現力等については、「自己紹介ではどのような内容を目指せるとよいか」という質問に対して、「相手に分かりやすい内容にする」「相手との共通点を伝える」などと、自己紹介をどうすればよいか生徒なりに考えたり判断したりする生徒が多かった。「具体的に

はどのような内容の自己紹介か」という質問に対しては、書くことができない生徒がほとんどであり、よい自己紹介のイメージはあるものの、具体的なイメージまではもてていないことが分かった。自己紹介の目的や場面、状況をしっかりと捉え、目的に合った内容や工夫を具体的に考え表現できるように、目標に対する振り返りをして課題を解決したり、ペアワークでアドバイスを入れたり、全体で共有したりしていきたい。

(3) 指導観

- ・前単元までの振り返りの活動として、ALT と生徒一人一人が自己紹介をする時間を設ける。本単元では更に自分自身について深く知ってもらえるような自己紹介をすることのよさについて ALT から伝えることで、本単元へのモチベーションにつなげたりスムーズな導入につなげたりすることができるようにする。
- ・一般動詞を使用することで、自分の習慣や好みをより深く伝えられるということに着目できるように、教師がモデルを示す。
- ・生徒が単元全体の計画や目標を理解し、各時間で最終表現活動での達成した姿を意識して学習を進めることができるように、**Can-do List** のルーブリックで伸ばしたい力を共有する。**Can-do List** を通して個人で目標を立てたり、どんな表現を習得したらいいか考えたりすることができるようにする。
- ・新出言語材料の使用場面を捉えやすくするために、写真や絵、図などを使用して一般動詞や副詞、接続詞の働きや使用場面を把握する。
- ・新出言語材料の定着を図るために、教科書の本文内容理解や音読練習をしたり、教科書の本文を用いて自己紹介をしたりする活動を取り入れる。
- ・最終表現活動で伝え方を生徒自身が考え工夫できるように、どのような自己紹介にしたらいいかについて友達とアドバイスをしたり、全体で共有したりする。
- ・相手に質問をしながら自己紹介をすると互いに深く知れるきっかけにもなることを共有し、パターンプラクティスを通して質問表現の定着を図る。
- ・各時間で学んだことを次時で意識して生かせるように、振り返りの際に **Today's Goal** や個人の **to do list** を確認させ、目標や課題を継続して意識できるようにする。
- ・ALT に実際に自己紹介をさせることで、目標や課題の達成度を図ることができるようにし、さらに、次の単元以降の課題につなげることができるようにする。

3 単元の目標

ALT や友達に自分自身をより深く知ってもらえるように、伝える情報のつながりを意識しながら一般動詞を用いて自己紹介をすることができる。

4 指導と評価の計画（別紙参照）

5 本時の展開 (1 / 7)

(1) 目標

相手に自分自身についてより深く知ってもらうために、自己紹介でどのようなことを伝えるか考えることができる。

(2) 展開

学習活動と予想される生徒の反応	指導上の留意点及び支援・評価
<p>1 本時及び本単元の学習課題をつかむ。</p> <p>○生徒同士で自己紹介をし合う。</p> <p>・ケアン先生とやりとりしたときは緊張して笑顔がなかったから笑顔を意識しよう。</p>	<p>○前単元での課題を振り返り、課題点を意識して自己紹介させることで、本単元でも課題を意識して取り組んでいこうとする気持ちをもたせる。</p> <p>○ALTから、より個々の生徒を覚えやすくなるような自己紹介をしてほしいと要望を伝えることで、本単元で自己紹介をさらに改善しようとするモチベーションにつなげることができるようにする。</p>
<p>課題： どうしたら自分自身を深く知ってもらえる自己紹介となるだろうか。</p>	
<p>2 よりよい自己紹介を共有し、内容を考える。</p> <p>○どのような自己紹介がよいか捉える。</p> <p>・具体的に情報を伝えているな。</p> <p>・前回よりも個性が出せそう。</p> <p>・つながりがだいじなのだな。</p> <p>・実物を使って自己紹介しよう。</p> <p>○どんな内容や工夫にするか自己紹介について考える。</p> <p>・好きなことの情報をもう少し増やすと良いんじゃないかな。</p> <p>・質問すると相手も楽しめそう。</p> <p>・写真や絵を使うといいかも。</p> <p>○目標を設定する。</p> <p>・前は笑顔でできなかったから笑顔を意識したい。</p> <p>・自分の生活を楽しくできるようにする。</p>	<p>○本単元の目標、目的、場面、状況について共有することで、各自の目標や課題設定につなげることができるようにする。</p> <p>○深く知ってもらう自己紹介になるにはどのような自己紹介がよいのかペアで考えたり、ALTからアドバイスをしたりし、全体で目指す自己紹介のやりとりを共有できるようにする。</p> <p>○教員から、モデルとなる自己紹介をし、伝える情報に関連性があることや、副詞を使うことで情報を具体的に伝えることができることに気づけるようにする。</p> <p>○自分が伝えたい自己紹介をthinking toolを用いて書き出し、それをもとに本時以降の授業で練習したり改善したりすることができるようにする。</p> <p>○実際に自己紹介をさせてみることで、どのような表現や単語を身に付けなければいけないか捉えることができるようにする。</p> <p>○目標設定や課題解決を意識できるように、前単元で使用したCan-do Listを振り返らせる。</p> <p>○ペアで伝えてみることで、他の人の意識していることにも気づけるようにする。</p> <div data-bbox="667 1456 1401 1585" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>相手に自分自身をより深く知ってもらおうと、自己紹介の内容を考えることができる。(観察・ワークシート)</p> </div>
<p>4 本時の振り返りをする。</p> <p>○本時で考えたことなどをCan-do Listをもとに振り返り、書く。</p>	<p>○自己紹介の内容や情報のつながりについて、生徒の中から工夫点や良い例を伝えることで、よさや考え方を共有し、次時以降の意識づけになるようにする。</p>
<p><振り返り></p> <p>・自己紹介では、複数の話題をランダムに伝えるのではなく、自分の習慣や好みなどについて情報を深めながら伝えてみよう。</p>	

<「思考力、判断力、表現力等」育成のための具体的な手だて>

Can-do Listを基にした自己の振り返りや振り返りを基にした目標の設定

指導と評価の計画 英語科 1年 単元「ウッド先生がやってきた」(全7時間計画)

目標	ALTや友達に自分自身をより深く知ってもらえるように、伝える情報のつながりを意識しながら一般動詞を用いて自己紹介をすることができる。				
評価規準	<p>【知識・技能】 一般動詞や接続詞についての知識を身に付け、それらを実際のコミュニケーションの場面で活用することができる。</p> <p>【思考・判断・表現】 伝える情報を整理し、情報のつながりを意識しながら、相手により深く知ってもらえるように自己紹介をすることができる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 相手に自分自身をより深く知ってもらおうと、自己紹介を工夫しようとしている。</p>				
過程	時間	目標・課題	学習活動	振り返り	評価項目 (方法・観点)
つかむ	1 (本時)	<p>◎相手に自分自身についてより深く知ってもらうために、どのような自己紹介をするとよいか考えることができる。</p> <p>どうしたら自分自身を深く知ってもらえる自己紹介となるだろうか。</p>	<p>○前単元での学習内容や振り返りを基に、本単元での目標を設定する。</p>	<p>☆相手に印象的な自己紹介をするためには、複数の話題をランダムに伝えるのではなく、自分の習慣や好みなどについて情報を深めながら伝えるとよいのだな。</p>	<p>【思考・判断・表現】 相手に自分自身をより深く知ってもらおうと、自己紹介の内容を考えることができる。</p> <p>(ワークシート、観察)</p>
追究する	4	<p>◎一般動詞や接続詞についての知識を身に付け、それらを自己紹介活動の中で活用することができる。</p> <p>自分の生活や習慣、好みなどをどのようにしたら分かりやすく伝えられるだろうか。</p> <p>どのようにしたら相手と楽しく自己紹介することができるだろうか。</p>	<p>○教科書本文の内容理解やパターンプラクティスを通して、一般動詞や接続詞の使用場面や働きを理解する。</p> <p>○一般動詞を使用したコミュニケーション活動に取り組む。</p> <p>○自己紹介中に使用できる一般動詞を使った質問の仕方やリアクション表現を身に付ける。</p>	<p>☆一般動詞や接続詞は、様々なことを文で伝えるときにとっても大事な働きをするのだな。</p> <p>☆一般動詞をどんな順番で使うか考えてから自己紹介活動に向かおう。</p> <p>☆自己紹介の時には、相手のことも聞けるように質問がスムーズにできるといいな。また、自己紹介を通して仲良くなれるように、リアクションも入れよう。</p>	<p>【知識・技能】 一般動詞や接続詞の働きを理解したり、正しい場面で使用したりすることができる。</p> <p>(ワークシート、観察)</p>
まとめ	1	<p>◎友達との自己紹介活動を通して、ALTへの自己紹介に向けてより改善することができる。</p> <p>どうすれば、ALTの先生により具体的に自己紹介ができるだろうか。</p>	<p>○生徒同士で互いに自己紹介活動をし、相手にアドバイスをする。</p> <p>○副詞の使用場面と働きを知る。</p>	<p>☆相手に興味をもってもらえるように、自分はその行動や習慣をどの程度しているのか示すために、副詞を使うと便利なのだ。また、写真や実物があるといいかもしれない。</p>	<p>【思考・判断・表現】 ALTへの自己紹介に向けて工夫したり改善したりすることができる。</p> <p>(ワークシート、観察)</p>
	1	<p>◎自己紹介のやりとりをしたり自己紹介文を書いたりすることができる。</p> <p>自己紹介をし、自分自身について相手に深く、分かりやすく伝えよう。</p>	<p>○ALTに自己紹介のやりとりをしたり、自己紹介文を書いたりする。</p>	<p>☆自分のことを深く伝えたり、分かりやすく伝えたりするために、話の流れや情報の順序を意識して伝えるとよいことが実際の自己紹介で分かった。</p>	<p>【知識・技能】 一般動詞や接続詞を使いながら分かりやすく自己紹介をすることができる。</p> <p>(ワークシート、観察)</p>